



スポーツで国際交流 ～SEA 活用のすすめ～

外国青年を招致して地方自治体などで任用し、外国語教育の充実と地域の国際交流の推進を図る「語学指導等を行う外国青年招致事業」（JET プログラム）について、主に学校での語学指導に従事する外国語指導助手（ALT：Assistant Language Teacher）および地方自治体の国際交流活動に従事する国際交流員（CIR：Coordinator for International Relations）は広く知られているが、もうひとつ、スポーツ国際交流員（SEA：Sports Exchange Advisor）という職種があるのをご存じだろうか。今回は、SEA の活用についてご紹介する。

〔（一財）自治体国際化協会 JET プログラム事業部調整課〕

1

SEA の概要

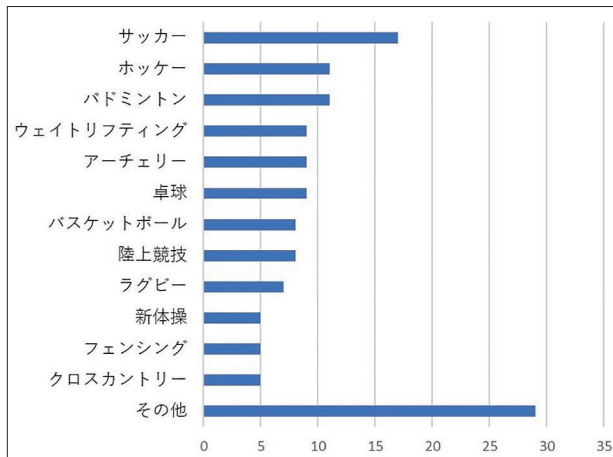
（一財）自治体国際化協会 JET プログラム事業部調整課

SEA の役割

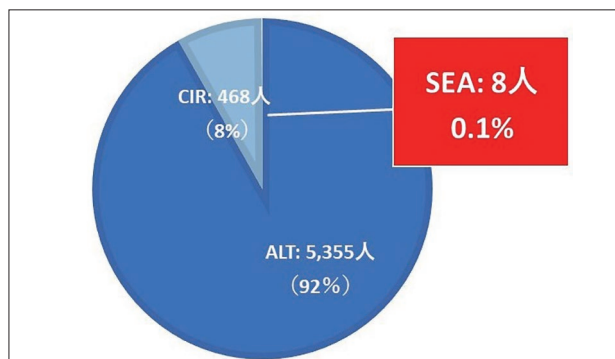
SEA は、主に地方自治体のスポーツ関係部署や教育委員会に配属され、スポーツを通じた国際交流活動に従事する。地域のスポーツ振興や競技力の向上、学校体育の充実などへの貢献が期待されており、主に学校の部活動や地域のスポーツクラブでの指導や、地域のスポーツイベントへの参加を行う。

◆ SEA の主な職務内容

- ①任用団体のスポーツ指導事務の補助（スポーツ事業の企画・立案および実施にあたっての協力、助言など）
- ②地域における優秀な選手などに対するスポーツ指導への協力
- ③任用団体の職員、地域住民に対するスポーツ指導への協力
- ④地域の民間国際交流団体のスポーツ事業活動に対する助言、参画



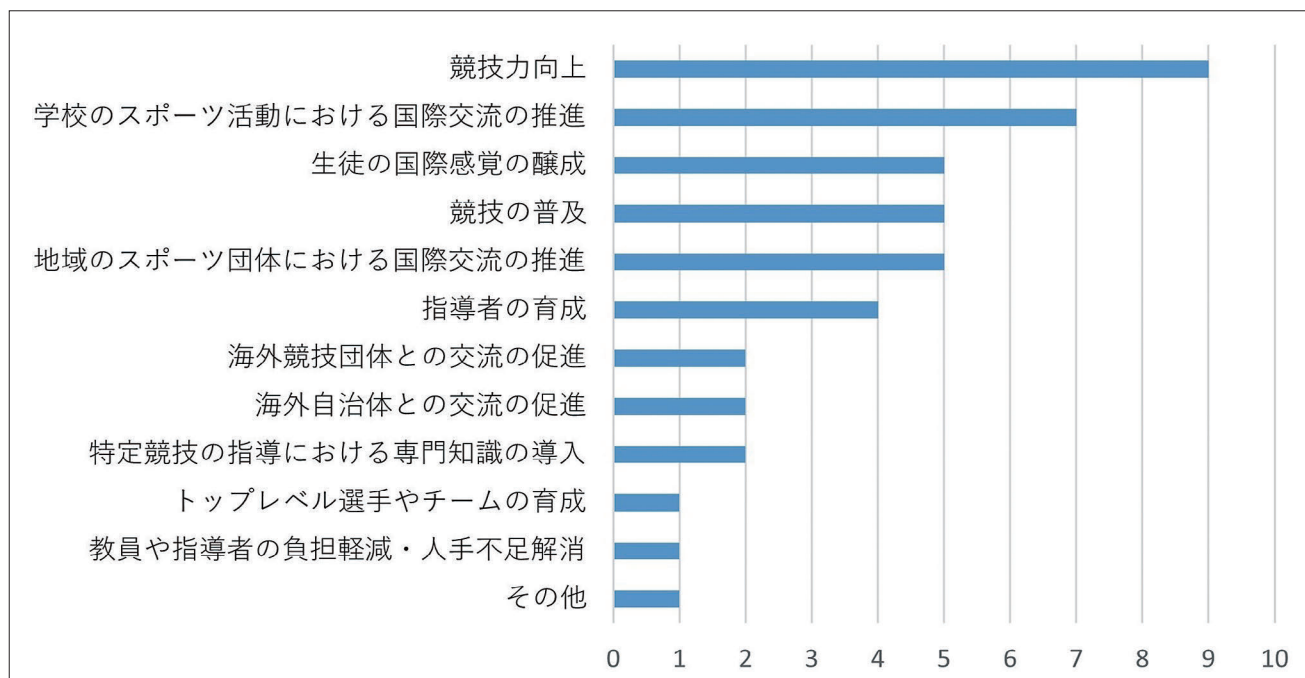
SEA の専門競技内訳（2000 年以降／2023 年 7 月現在）



JET プログラム参加者職種別内訳（2023 年 7 月現在）

数少ない職種・SEA

1994 年の招致開始以来、200 人以上の SEA が来日した。2023 年 7 月現在、国内で活躍している SEA は 8 人であり、全体のわずか 0.1% に留まっている。



SEA 任用の当初の目的 ※ 2018 年以降に SEA を任用した団体を対象としたアンケートより（2023 年）

母国の推薦を受けた優秀な指導者

SEA の大きな特徴として、人材の優秀さが挙げられる。SEA として参加するには、特定種目の指導者の分野で特に優秀と認められる者として、母国の国内オリンピック委員会（NOC）や政府機関などから推薦を受ける必要がある。したがって参加者の中には、かつて強豪国のナショナルチームのメンバーやコーチとして活躍した、輝かしい実績を持つアスリートもいる。地域のスポーツ環境にこうした優秀な指導者を配置できることは、SEA 制度の大きな魅力である。

任用団体の SEA 担当者を対象に実施したアンケートの結果からも、国際交流の分野だけでなく、特定競技の

普及や競技力の向上、さらには指導者の育成を目的として SEA を活用する団体が多くあることがわかる。

マイナー競技でも招致可能

SEA は知名度が高くない競技であっても招致が可能である。2023 年 7 月現在活動している SEA の中には、ホッケー、アーチェリー、クロスカントリーといった、日本では競技人口の比較的少ない競技の専門家がいる。

競技の普及度に限らず、SEA を活用することで、地域のスポーツ環境に高度な専門指導を導入できることから、マイナー競技の強化・推進を目的とする団体にとっても、SEA 制度活用のメリットは大きいといえる。

SEA の招致を希望するには

SEA は JET プログラムが提供する職種のうちの 1 つであり、招致にかかる手続きや財政措置は ALT および CIR と同じである。SEA に関心がある地方自治体や公立学校は、是非とも当協会に相談していただきたい。



地域のマラソンイベントに参加する SEA（山形県長井市）



JET プログラム
ホームページ

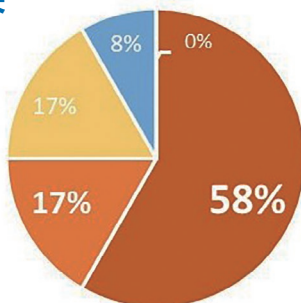


任用を検討中の団体へ
※パスワード付き

SEA の活用の実態について、2018 年以降に SEA を任用した団体の担当者にアンケート調査を行った。

国際交流の成果

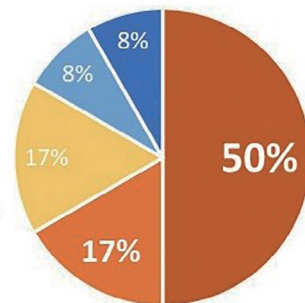
- 成果があった
- ややあった
- どちらともいえない
- あまりなかった
- なかった



- スポーツという共通のテーマがあると、言葉があまりなくても伝わる部分が多く、**学生も市民も外国人とコミュニケーションをとることに物おじしなくなった。** (大阪府泉南市)
- SEA が学校現場やスポーツの普及を行うことで、**生徒や参加者の国際感覚が向上している。**外国人と接することがない中で、**SEA と過ごす時間は子どもたちにとって貴重な国際交流の機会**となっている。 (滋賀県米原市)
- SEA は陸上指導をオールイングリッシュで実施しているため、児童にとって英語に対するハードルが低くなり、**文法が多少間違った英語でも臆することなく話しかける児童が増えた。** (山形県長井市)

競技力の向上

- 競技力が向上した
- やや向上した
- どちらともいえない
- あまり向上しなかった
- 向上しなかった



- 2022 年度全九州大会（6 月）において 2 年連続して玖珠美山高校男女ホッケー部が**アベック優勝**するという成果が出ている。 (大分県)
- 小学生では**2 年連続で全国優勝**、中学生では**地区大会で常に優勝**、高校生も団体、ダブルス、シングルの**3 部門（で優勝を）独占**するなど、**これまで以上の成績を残すようになった。** (北海道白糠町)
- 配置校生徒が高度な技術指導を、直接受けることにより、競技力の向上が図られた。**県内の大会はもとより、九州大会や全国大会でも上位の成績を収めている。** (長崎県)

SEA 活用のメリット

- JET プログラムを利用して学校にコーチ（SEA）を招へいすることで、競技力の向上だけでなく、**その競技に興味を持つ学生が増え、競技人口が増加するというメリットがある。** (和歌山県)
- 言葉がなくても伝わる部分が多いため、**異文化交流をしやすい環境が生まれる。**また、競技に対する考え方の違いなども知ることができ、**多様性の理解につながる。** (大阪府泉南市)
- スポーツを理論的に解説、指導するとともに、**外国語によるコミュニケーションであるため、指導を受けることもたちにとってよい刺激であった。** (京都府京丹波町)

SEA 活用における課題

- **言葉の問題、文化の違いをクリアできるコミュニケーション能力が必須**であり、これを土台として地域コミュニティに溶け込めるかが自治体として活用しやすいか、しにくいかの差だと感じている。 (北海道東川町)
- SEA は**必ずしも日本語が堪能ではない**ため、通訳を介さない場合のコミュニケーションが課題と感じる。 (茨城県笠間市)
- SEA の任用は、書類選考となるため、**実際の活動業務が本人に合わなかった場合は、継続的な任用につながらないことがある。** (滋賀県米原市)



国体強化練習会での指導

ニュージーランドでのホッケー経験を活かし、学校や地域全体の競技レベル向上に貢献している。特に 2022 年度の九州高体連主催の全九州大会（6 月）で、**男女アベック優勝に貢献**したことはもちろん、地域でのホッケーの普及に務め、地域に拠点ができたり、子どものスポーツとして定着したりするなど、**裾野の拡大・競技人口の増加を図ることで、当該スポーツの当該地域における振興につなげることができた**。そして、指導していた生徒が、大学進学や就職をしてもホッケーを続け、「**地元出身プレーヤーが凱旋プレーする**」形で、競技の普及に還元する好循環が生まれている。（大分県）

ジュニア世代を指導する際に、生徒の興味を引くキャラクターのぬいぐるみを頭の上に置き、体の軸を作るといった**独自のトレーニング**を行うとともに、自らが射撃フォームの絵を描いてジェスチャーを交えながらジュニア世代にも**分かりやすい指導**を行っていた。生徒も積極的に英語でコミュニケーションを取ろうと挑戦しており、語学学習にも役立っていると感じる。（愛媛県）



小・中学生へのアーチェリー技術指導

SEA 任用が招いた 20 年のつながり：気功・太極拳で国際交流 心も体も健康に

鹿児島県いちき串木野市議会事務局 局長 石元 謙吾

2001 年 8 月、人口 2 万 7,000 人の小さな町に SEA がやってきた。中国出身で、名前は、馮金瑞（フォン・ジン・リイ）さん、30 歳。スポーツといっても「気功・太極拳」である。市民の健康意識は高いものの、気功とは何なのかも知らない。太極拳に縁もゆかりもない町で、どのように活動を始めたか、全く先の見えない中での受け入れだった。

不安だらけのスタートだったが、気さくで笑顔の絶えない好青年のフォンさんは、すぐに所属先の教育委員会保健体育課に溶け込み、同年代の担当職員 2 名とともに活動方針を話し合い、まずは市民に気功・太極拳を知ってもらうための教室を週 3 回程度開催することから始めた。最初に募集した初級コースでは、第 1 期生として約 20 名が受講。その教室の楽しさの評判が広まり、4 か月後には更に曜日ごとに教室を開催、その後、夜間コースも開設するなど、順調に活動が行われていった。教室生のほとんどが 30 代から 70 代の女性で、気さくなフォンさんはまさしく「アイドル的存在」。教室終了後にはお茶会や昼食会が開かれるなど、市民に溶け込んだ存在となった。健康増進・体力づくりの効果も大きい、何より仲間づくり、生きがいづくりの面での影響は本当に素晴らしい一言



申木野太極拳連盟上海俱樂部 発足 10 周年記念発表会の様子

だった。

SEA としての任用は 2 年間と短い期間だったが、任用終了とともに会員 100 名を超える「申木野太極拳連盟上海俱樂部」が発足し、2023 年現在も活動が続けている。また、2004 年から上海俱樂部とフォンさんの勤務する上海中医薬大学との交流が始まり、隔年で互いに中国と日本を行き来する（計 13 回）など、20 年以上にわたり親密な国際交流を行っている。今でも会員からは、「こんなに親しくなれた外国人はいない」、「健康になれたのはフォンさんのおかげ」などの声がある。

このように、気功・太極拳による国際交流事業が継続しているのは上海俱樂部の皆さんのおかげ。当時の担当者としてはとても嬉しい限りである。

「写真の町」東川町の紹介

東川町は、北海道のほぼ中央に位置し、旭山動物園で全国的に知られる旭川市に隣接し、日本最大の自然公園である大雪山国立公園の区域に含まれる自然豊かな立地の自治体である。

また、本町は1985年に世界的にも数が少ない「写真の町」宣言を行い、写真映りのよい町を目指し、「写真文化首都」としての町づくりに取り組み、例年、東川町国際写真フェスティバルや写真甲子園などのイベントを開催している。子どもたちに写真に親しんでもらうために、月2回活動を行う写真少年団や学校の授業などでも「写真」をキーワードにしたプログラムを行っている。



風のない日にしか見られない東川町の絶景「鏡面水田」

SEA活用のきっかけ

東川町には、大雪山国立公園内の「旭岳」に日本で最も長い期間滑走できるクロスカントリースキーコースがあるにもかかわらず、町内でクロスカントリーが十分に普及しているとはいえなかった。そこで、2011年に町が中心となって少年団を立ち上げ、町の子どもたちへの門戸を広げていった。

しかし、当初の少年団においては指導不足などにより成果が見られず、競技人口も増加しなかった。そんな中、海外で活躍した人材からのエッセンスを指導の中に取り入れることで、子どもたちに国際感覚の習得にあわせてスキー技術力向上に結びつけることができないだろうかという声が強くなった。

そこで、2014年にノルウェーで100年以上の歴史がある名門スキークラブで長年にわたり講師を務めたトリグバ・マルクセット氏をSEAとして招へいしたところ、子どもたちの間でクロスカントリーが馴染みの深いスポーツに変わっていった。

これを契機として、他のスポーツ少年団に、海外の指導者から直接指導を受けることができるSEA制度が認知されていった。SEAを希望する少年団が増え、町内全体で2014年から2023年までの間に、クロスカントリー5人、サッカー3人、バレーボール2人、野球2人、卓球1人の合計13人のSEAを招へいしてきた。



東川町初代SEAのマルクセット氏

無理に母国の指導を押し付けない

2022年にデンマークから本町に着任したSEAのアレクサンダー氏は、「東川サッカー少年団」で、デンマーク・コペンハーゲンFCでの経験を基に、「楽しむこと」を重要視した指導を行っている。チームでは、小学校低中学年を担当することが多く、ときにはサッカーに集中できない子どもたちのため、「遊び」の要素を練習に入れることで、真剣にサッカーに向き合う工夫をしている。また英語を中心にコミュニケーションを取っているが、シンプルな英単語や簡単な日本語を使って上手に子どもたちの指導を行うため、着任当時から通訳を必要としなくてもコミュニケーションを取ることができている。

アレクサンダー氏は、小学生の年代では「楽しさ」を通じて、「上手になりたい」と自発的にボールを触る回数が増えることが重要であると考えている。よって、無理に技術を身に付けさせる日本式の反復練習とは異なる、短時間で「考える」メニューを練習に多く取り入れている。

一方、日本人指導者とのコミュニケーションの中で、

日本式の指導方法に納得がいけない場面もある。そんなときも、アレクサンダー氏は無理に母国式のトレーニングを押し付けることはしない。日本式指導の良さや過去の例をしっかり勉強し、なぜこのやり方なのかを探索することで、双方が気持ちよく指導できる方法を提案している。

このような中で、東川サッカー少年団では 2022 年 8 月のアレクサンダー氏の着任後、半年の間に 10 人の新入団者が加わり、地域のスポーツ活動に大きな効果が出ている。



選手とハイタッチするアレクサンダー氏

SEA が学校活動に参加する取り組み

SEA は一見するとその業務内容が「勤務する自治体内でのスポーツ指導」に限定されることがあるが、本町では地域コミュニティの基本は小学校単位でつくられると認識しており、そこで学ぶ子どもたちと SEA がさまざまな形で触れ合うことに大きな意義があると考えている。

その一つとして、文部科学省指定の研究開発学校として創設した本町独自の教科「Globe (グローブ)」がある。ゲストティーチャーとして SEA が子どもたちと授業で



Globe (グローブ) での授業風景

触れ合う機会は、「ふるさと東川を愛する心情を高め、人間尊重の精神を基調とする国際性を養い、国際社会に通用するコミュニケーション能力の育成」というこの教科の目的の達成に大きく寄与している。

SEA の可能性を広げる仕組みを

地域に母国のスポーツメソッドを落とし込み、その地域の子どもの国際的な感覚を育成する仕組みとして、SEA の活用には大きな意義があることは、既に周知の事実である。ただ、本町で任用した SEA は、JET プログラムの終了後は次のステップとして日本国内の新たな場所での指導を希望することが多いが、雇用先が見つかることがなかなかないのが実状だ。

任用団体が本町のような小さな自治体であっても、プログラムの終了後に国内で活躍できるような、SEA の将来の選択肢を広げる支援制度ができれば、SEA それぞれが活動経験をより大きく活かすことができるのではないだろうか。



東川バレー少年団



東川クロスカントリースキー少年団

滋賀県米原市の紹介

米原市は滋賀県東北部地域の中心に位置し、日本百名山のひとつである伊吹山とその南には霊仙山がそびえ、総面積の63%を占める森林にたくわえられた水が、清流姉川や天野川となって地域を流れ、母なる琵琶湖に注ぐという、水と緑に包まれた自然豊かな地域である。

また、伊吹山のお花畑、姉川の清流、三島池のマガモ、天然記念物のゲンジボタル、地蔵川の梅花藻、絶滅危惧種のハリヨやイヌワシなど、美しい自然と貴重な動植物の宝庫でもある。さらに県下有数の豪雪地帯としても有名で、1927年には、伊吹山の山頂で11m82cmの積雪を観測するなど、世界の山岳観測史上歴代1位を記録している。

ホッケーのまち・まいばら

一方、米原市はホッケーのまちとしても知られており、フィールドホッケーの普及に力を入れている。

今から42年前の1981年に開催された「びわこ国体」で、旧伊吹町がホッケーの開催地となったことを契機に、ホッケーが地域スポーツとして定着し、今では多くのオリンピックやトッププレイヤーを輩出している。

2025年に開催される「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ」では、再びホッケー競技の会場地となることが決

定し、大会の成功に向けて、各小学校で出前授業を行い、ホッケーの楽しさを伝えたり、市内スポーツクラブへ体験教室の開催を委託したりするなど、市をあげてさらなるホッケーの普及に取り組んでいる。また、地元男子ホッケークラブチーム「BlueSticks SHIGA」の活動を支援し、市内中学校および高校のホッケー競技指導にSEAを派遣するなど、競技力向上にも努めている。

招致のきっかけはホストタウン

本市のSEAであるニュージーランド出身のミッチェル・スローン氏は、2018年8月からおよそ5年の間、本市で勤務している。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることに併せて、米原市がニュージーランド



ホッケーではない体育の授業にも参加



朝焼けの伊吹山

のホストタウンとなったことをきっかけに、滋賀県初となる SEA を採用することとなった。

本市の SEA の勤務内容は、ホッケーを通じた国際交流である。具体的には、小学校・中学校の体育の授業、総合型地域スポーツクラブ、中学校の部活動（ホッケー競技）に参加し、スポーツの重要性や体を使って運動することの楽しさを伝えながら、児童生徒の英語力の向上のみならず、国際感覚の醸成にも貢献している。

言葉の壁を越えた SEA の活躍

SEA の活動範囲は米原市全域であり、複数の場所（小学校・中学校・総合型地域スポーツクラブなど）において勤務している。自らスケジュール管理を行いながら、トラブルにも柔軟に対応し、円滑に活動を行っている。

ホッケー競技の指導者として、中学校の部活動や滋賀県の小学生中学生を対象にした、「滋賀ジュニアユース」の練習に参加しているほか、BlueSticks SHIGA の一員としても活動し、地域のスポーツイベントにもスタッフとして参加するなど、言葉の壁を越えて、積極的に地域への貢献も行っている。



地域イベントで子どもたちとプレー

しかし、2020 年の 1 月から猛威を振るい始めた新型コロナウイルス感染症の影響で、直接的なふれあいが一時的にできなくなり、SEA の活躍の場がなく、活動自体が難しい期間もあった。そうした中でも、学校が行う感染症対策を遵守しながら、SEA として、授業だけではなく、休み時間にも児童と可能な限り一緒に遊び、多くの時間を児童と関わるように積極的に活動してきた。その甲斐もあり、児童だけではなく地域の方からも「ミッチー」の愛称で親しまれるようになった。

指導においては、任用から 1・2 年の間は、その他の指導者などと協調しながら指導を行い、時には、ニュー



滋賀ジュニアユースの指導

ジーランドでの経験を活かしたトレーニングメニューを行うことで、選手の競技力の向上に大きく貢献してきた。

任用から 3 年目となるころには、指導に主体的に取り組んでいることからリーダーを任されるなど、指導者から絶大な信頼を受け、指導している中学校を見事、全国大会準優勝に導いている。



部活動の指導

国際スポーツ大会の開催に向けて

以上のとおり、本市の SEA は、「ミッチー」の愛称で慕われ、地域に積極的にに関わり、溶け込んでいる。

現在は、2025 年に開催される「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ」に向けて、大会で活躍する選手や団体を育成するため、中学校のみならず、市内の高校の部活動にも積極的に指導に出向き、年代を問わずホッケーの競技力向上に取り組んでいる。

また、BlueSticks SHIGA の一員として、国内最高峰のホッケーリーグの試合で活躍することによって、子どもたちに夢や希望を与え、同時にスポーツをすることの素晴らしさを伝えている。

今後も、ミッチーのさらなる活躍により、米原市内のスポーツ人口が増えるとともに、地域の国際化が促進することを心から願っている。

SEA にインタビュー 文化の違いを超えて伝える経験と技術

(一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部調整課

プロフィール

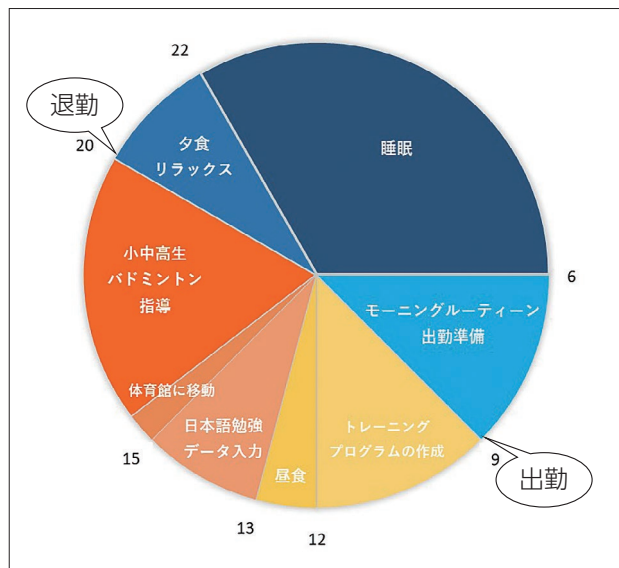
Made Chandra Berata (マデ・チャンドラ・ベラタ)

- ・種目：バドミントン
- ・SEA 期間：
2003-2006 (岐阜県)
2019- 現在 (北海道白糠町)
- ・出身：インドネシア
- ・経歴：
1997-1998 カンボジアバドミントンナショナル
コーチ (カンボジア)
1999-2003 インドネシアバドミントン協会バリ・
ブレレン ヘッドコーチ (インドネシア)
2007 トリックイーパングス (バドミントン S/J
リーグ) チームメンバー兼コーチ (京都府)
2006-2019 インドネシアバドミントン協会バリ・
ブレレン コーチコーディネーター (インドネシア)
- ・趣味/好きなこと：
ガーデニング、映画鑑賞、音楽鑑賞



Q. JET プログラムに参加したきっかけを教えてください。

バドミントンコーチとして自分の力を試すと同時に、白糠町の若い有望なバドミントン選手に私の経験と技術を共有しようと思いました。また、日本文化について学び、見識を深めようと思いました。



ある平日のスケジュール

Q. SEAとしての業務内容を教えてください。

平日には町内の小・中・高生の指導、毎週土曜日にはバドミントンの特別なトレーニング・プログラム「BULUTANGKIS」(インドネシア語で「バドミントン」)を行っています。

Q. SEAとしてこれまでに行った取り組みの成功例について、その実施方法と結果を含めて教えてください。

地元のバドミントンコーチ、バドミントン選手、そしてその保護者の方々と協力し、達成したい目標を共有することから始めました。そしてトレーニング・プログラムを作成し、目標を達成するために可能な限りそれを実行してきました。

結果はすばらしい形で現れています。指導している選手の一人である松下一誠選手が、2021年に開催された全国小学生選手権5年生以下の部で優勝し、2022年には全国小学生ABC大会でも優勝を果たしました。



全国優勝を果たした松下一誠選手(中央)と2022年から白糠町で共にSEAとしてバドミントンを教えているヘンドロ・ブディ・スラハマンさん(左)と一緒に、白糠町にて

Q. SEAとして活動する中で、どんな時にやりがいを感じますか？

自分の経験やバドミントンの技術を若いバドミントン選手に伝えると同時に、日本の文化を学ぶことができることにやりがいを感じています。

書道を習う機会もあり、それは私にとって永遠の思い出になりました。なぜなら、書道の背後にはスポーツ、特にバドミントンに深く関係する哲学があると知ったか

からです。日本の書道は、単に文字を書く技術だけではなく、忍耐の本当の意味を教えてくださいました。美しい文字を書くには、技術だけでは不十分なのです。忍耐強く練習を続け、心を込めて筆を走らせなければなりません。スポーツ（バドミントン）でも、トップレベルの選手を目指す



2022年11月、SEA中間研修にて書道を体験

なら、忍耐と粘り強さ、そして継続的な練習が必要です。

バドミントンコーチとしての私の仕事と貢献が評価され、この町の若いバドミントン選手の成績向上の手助けができたことに、とても感謝しています。

Q. 日本で指導をするにあたって、さまざまな文化の違いに戸惑いもあったのではないのでしょうか。体験したカルチャーショックの例があれば教えてください。

日本のバドミントン選手は、常にベストを尽くそうとする傾向があります。けがをしても、練習に参加することをやめ



白糠町教育委員会のオフィスでの業務の様子

ようとはしません。私の国インドネシアと比較すると、非常に異なる文化です。静養するように私が説得すると、彼らは目に見えて残念がるため、けがをしても練習ができるよう、特別なトレーニング・プログラムを作っているようにしています。

Q. 言語の壁を乗り越えるために、指導時のコミュニケーションにおいて工夫していることは何ですか。

できる限り日本語を勉強するようにしています。漢字も学んでいます。時には選手から教わることもあります。選手には、インドネシア語や、コミュニケーションに役立つ簡単な英語も教えるようにしています。

また幸いなことにバドミントンはお手本を見せて教えることができるので、指導時はそうすることが多いです。

Q. SEAとしての今後の目標を教えてください。

選手がバドミントンだけでなく、将来他の分野におい

ても最高の結果を残せるようにサポートしていきたいと思っています。選手には、コートの内外問わず対戦する全ての相手に敬意を払い、コーチやチーム、応援して下さる方々への感謝を忘れずに、スポーツマンシップに溢れた良い性格と態度の持ち主になってほしいと思っています。世界的に著名な作家であるジグ・ジグラの言葉にはこうあります「自分の場所を決めるのは才能ではなく態度である」。スポーツ、特にバドミントンでは、選手皆がそれぞれの目標を達成するために努力し、試合では、対戦相手と自分自身が成し遂げたすべてのことに敬意を払うのです。

Q. JETプログラム終了後の目標を教えてください。SEAとしての経験を今後の活動にどのように活かしていきたいですか。

どんな場所にいたとしても、バドミントンの発展に貢献したいと思っています。この分野で自分の経験や技術を共有し、指導する選手たちの進歩や成長を見ることは、私にとって特別で誇らしいことです。彼らが夢見る最高のステージで成功する姿を見ることは、私自身の喜びでもあります。

Q. 最後にひとことお願いします。

SEAの経験は、私の人生においてとても貴重なものです。才能あるアスリート、多くの人々、異なる文化や言語を持つ人々に出会えたこの機会に感謝しています。

父は、私を含むバドミントン選手たちに「選手を辞めるのであれば、コーチになりなさい。才能のある多くの選手たちがコーチを必要としている。たとえどんなに小さな貢献であっても、できる限りのことをしなさい」と言いました。だから、SEAを2度経験できたことは、私にとって名誉なことであり、SEAというこの仕事は、やる価値があるのだと強く思います。



2023年6月、北海道中学校バドミントン大会釧路地区予選にて団体戦優勝

プロフィール

Liam Arkley

(リアム・アークリー)

- ・種目：サッカー
- ・SEA 期間：2021-2023
- ・SEA 期間の任用団体：
大阪府泉南市
- ・出身：イギリス（スコットランド）
- ・経歴：
2019-2020 コミュニティ U15 フットボールコーチ（スコットランド）
2020-2021 アカデミーフットボールコーチ（韓国）
2023- 現在 リバプール FC インターナショナル・アカデミー・ジャパンリージョナルヘッドコーチ（関西）
- ・趣味／好きなこと：
サッカーをすること、サッカーを観ること、外国のサッカーの試合を観に行くこと、レストランに行くこと、新しい場所に行くこと



Q. JET プログラムに参加したきっかけを教えてください。

大学卒業時、既に海外での指導経験があったことから、スコットランドを飛び出して、外国で自分を試してみたいと思いました。JET プログラムでサッカーの SEA を募集していると知り、日本はちょうどいい場所かもしれないと思いました。

Q. SEA としての業務内容を教えてください。

中学校のサッカー部のコーチをしていました。学校のクラブ活動の一環だったので、私が親しんできた競技サッカーとは少し違うものでした。サッカー部では地区大会で優勝することができ、全国大会にも出場しました。

加えて、大学サッカー部の C / D チームのコーチも始めました。大学の日本人コーチたちから学び、得たも



コーチを務めた大阪体育大学（体大）のチームと練習試合にて

のを中学校での指導に活かせると思ったからです。

さらに、泉南市で月 2 回活動するフットサルグループの運営も始めました。老若男女の多国籍なメンバーが参加し、地元の人と外国人が会って気軽にスポーツを楽しめるととてもよい機会になりました。



泉南フットサルサークル

Q. SEA として活動する中で、どんな時にやりがいを感じましたか？

多忙なスケジュールの中、部活のために時間を割かなければならない先生方の負担を軽減することができることを嬉しく思っていました。

また日本語を勉強することで、身の回りのあらゆる状況に目を向けるようになりました。特に日本の子どもたちを取り巻く環境や彼ら自身の行動のニュアンスについて、よりよく理解できるようになりました。

地元の人たちが日本について多くのことを教えてくれたのと同様に、私も彼らに外国人との交流について新しい視点を与えることができたのではないかと思います。

Q. 言語の壁を乗り越えるために、指導時のコミュニケーションにおいて工夫していたことは何ですか？

最初の練習では、チームと一緒に達成したい目標をあらかじめ日本語に訳しておいて、チームを集めてキャプテンに読んでもらいました。そしてチームに「日本語を学ぶことを約束します」と伝えました。この最初のメッセージによって、彼らとの距離が縮まったと思います。

以降、デモンストレーションを通した指導を多く行いました。覚えた日本語はできるだけ早く使うようにした結果、6～9 ヶ月後には、全て日本語（上手ではありませんでしたが）でトレーニングを行い、自分の伝えたいことを伝えることができるようになりました。

通訳やアシスタントがいないことは、私にとって非常に困難なことでしたが、私が日本語を話せないが故に、私に何かを言いたくても言えない子どもたちにとっても困難なことだということを常に心に留めておく必要がありました。それが、「もっと早く日本語がうまくなりたい」というモチベーションにつながりました。

Q. SEA としてのモットーは何でしたか？指導時に心がけていたことがあれば教えてください。

私は、自分が指導している子どもたちが求めていることを理解しようと努めていました。これは、どんな分野のどんなコーチにとっても、最も重要なことです。選手たちが何を求めてやってきているのかわからなければ、彼らに合った練習を行うことはできませんし、お互いを理解することが難しくなります。

よって、私が最も大切にしていたことは、外国のやり方を押し付ける前に、まず日本のやり方を理解することです。つまり、「listen more, talk less (話すより聴く)」ということです。



泉南中学校での最後の試合

Q. 活動を通して感じた、SEA 制度についての課題について教えてください。

SEA を学校の部活動に割り当てる際には慎重になるべきだと思います。部活動の中身によっては、コーチとして評価を得て、主にキャリアアップを目的として来日している SEA にはこの職は適さないことがあるからです。

こうした SEA の目的のズレは、ただプレーすることを楽しみたいだけの生徒に悪影響を及ぼしてしまいます。

また、これは学校の先生方にとっても好ましくない状況なので、こうなると SEA・生徒・学校の3者が不満を抱えることになる可能性があります。

部活動指導のために SEA を任用するのであれば、以下の項目をチェックするべきだと思います。

- ①学校の先生方が SEA に対して寛容的であるか
- ②学校や任用団体が SEA を適切にサポートできる体制が整っているか
- ③SEA の配属先が競争力のあるチームで、高いレベ

ルで活発に活動しているかどうか

もしこれらの項目が当てはまらなければ、関係者と SEA の間に溝が生じてしまう可能性があると思います。

Q. 現在の活動について教えてください。

リバプール FC インターナショナル・アカデミー・ジャパンでヘッドコーチをしています。担当は関西エリアで、指導内容やコーチのマネジメント、練習のプラン、スタッフの役割分担といった、エリア内での指導に関する業務を幅広く行っています。

Q. SEA の経験は現在の活動にどのように活かしていると感じますか。

SEA の経験のおかげで、日本語を早く習得することができました。現在の仕事でも、選手やスタッフの誰もが英語を話さないの、とても役に立っています。

また SEA 時代には、教育、スポーツ、社会的慣習、習慣、話し方や一般的なマナーに関連する日本の文化的な事柄を学ぶことができました。これは日常生活だけでなく、現在の仕事における自分の行動や業務の進め方を決めるうえでもとても重要です。

Q. 他の JET 参加者や、JET 参加前の方々へのアドバイスはありますか。

やはり先ほど言った「listen more, talk less」です。

また、他の JET 参加者がやっていることをまねするのではなく、経験を自分自身のものとして捉え、積極的に行動することが大切だと思います。同じ外国人と行動を共にしながら、日本についてあれこれ想像するのは簡単です。しかし、日本人と実際に交流し、リアルな日本の生活がどのようなものかを知ることは、それとは全く別の素晴らしい体験です。想像するのはやめて、実際に行動してみてください。その経験は、きっと自分の財産になると思います。

JET プログラムは、日本文化にどっぷり浸かる良い機会です。日本の人口6万人のまちにある中学校に通うなんて、他にどんな方法があるでしょうか？それが JET プログラムのユニークなところ。もし、このような機会があれば、ありのままの日本文化に触れ、できるだけ多くのことを吸収してください。



体大サッカー部の監督
日本のサッカーにおける同志です

プロフィール

Antoaneta Vitale

(アントアナタ・ヴィターレ)

- ・種目：新体操
- ・SEA 期間：2019-2021
- ・SEA 期間の任用団体：
山形県村山市
- ・出身：ブルガリア
- ・経歴：
2016-2019 新体操コーチ（イタリア、ペサロ）
2021- 現在 新体操コーチ（イタリア、サンタン
ジェロ・イン・ヴァード）
- ・趣味／好きなこと：編み物、本、旅行、日本



Q. JET プログラムに参加したきっかけを教えてください。

まず、大好きな日本という場所で私の人生の目的である新体操を子どもたちに教えることができるということに心が躍りました。そして、日本に住み、地元の方々と交流し、日本の文化を体験し、スポーツを通した異文化交流に参加することが、キャリアにおいても私生活においてもきっと素晴らしい経験になると感じたと同時に、この機会が自分の視野を広げ、私の日本に対する愛と関心を深めてくれるものになると直感的に思いました。

Q. SEA としての業務内容を教えてください。

村山市が東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウン事業でブルガリアとの交流を活発に行っていたことに関



むらやま新体操教室で同僚と一緒に子どもたちを指導
撮影：Dimitra Letterova

- ①「むらやま新体操教室」での指導（子ども約 50 人）
- ②市内の 7 つの保育施設で行う、新体操の要素を取り入れた異文化交流プロジェクトの企画・運営
- ③市民向け文化交流イベントの企画・運営
- ④ブルガリア料理を動画で紹介する「ブルガリア料理教室」の企画・運営

- ⑤ステイホーム期間に自宅でできる新体操のレッスン
動画の企画・作成



市内の保育施設でブルガリアの文化と新体操を子どもたちに紹介

Q. 着任時の第一印象を教えてください。

2019 年 8 月 21 日に村山市役所で仕事を始めましたが、村山市の市長をはじめ人々がとても温かく私を迎えてくださったこと、そして市役所や体育館の方々が非常に礼儀正しくコミュニケーションをとっていて驚いたことをはっきりと覚えています。

それから、市に到着する前に参加した新規 JET プログラム参加者向けのオリエンテーションで、クレアが行った研修の質の高さには、本当に驚きました。

Q. SEA として活動する中で、どんな時にやりがいを感じましたか？

人々と出会い、日本の生活、仕事習慣、食、音、色、香り、言語、考え方や伝承などの文化を体験しながら自分の文化を伝える機会を得ることは、私にとって宝物であり、最もやりがいを見いだせる経験でした。

また、日本の教育システムの中に身を置くことで、子どもと関わる仕事の多くの側面について、今までになかった視点を持つことができました。

さらに、私の活動に対する日本のメディアの関心も高く、私の国ブルガリアや新体操のことをより多くの人に知ってもらうことができ、文化間の懸け橋になれることにやりがいを感じました。

私の仕事は新体操の指導だけでなく、文化交流も含まれており、「ブルガリア料理教室」という動画シリーズで

は、ブルガリアの代表的な料理「リュテニツァ」のレシピを紹介しました。すると、地元の野菜を使ったリュテニツァを自分のレシピで作り、日本で売り出そうとしていた山形県鶴岡市の日本人の方が、私の動画を見て「意見やアドバイスが欲しい」と連絡をくれました。村山市役所で彼女と会ったのち、2021年9月に、ブルガリアの伝統にインスパイアされ、山形の地元の野菜を使ったリュテニツァが商品化されました。文化の素晴らしい融合だと思いませんか？それを実現することが、私の使命だったのではないのでしょうか。



メイド・イン・ジャパンのリュテニツァ ブルガリアの新聞でも紹介されました

村山市との強いつながりを感じ、自分の使命を果たすことができ誇りに思うと同時に、足跡を残すことができ嬉しく感じています。

Q. 日本で指導をするにあたって、さまざまな文化の違いに戸惑いもあったのではないのでしょうか。体験したカルチャーショックの例があれば教えてください。

正直なところ、日本に来る前に戸惑ったことはなく、滞在中もカルチャーショックを受けたことはありませんでした。それは、文化的に異なる生活様式や考え方に出会うことを覚悟しながらも、どんな場面も好奇心を持って楽しみ、一瞬一瞬を大切に生活すれば、この経験は私の宝物になるという心構えを持って来日したからだと思います。



着物を着て日本の友人と

Q. 言語の壁を乗り越えるために、指導時のコミュニケーションにおいて工夫していたことは何ですか？

幸い新体操は、身振り手振りではほとんどのことを説明することができるので、初めはそうしていました。それから身体の部位を表す単語（背中、肘、膝、つま先など）や、間違いを指摘するための簡単なフレーズを学び、それを毎日繰り返しているうちに、少しずつ流暢に話せるようになっていきました。ですから、言葉の壁があったとしても、それに限界を感じることはありませんでした。

さらに、初日から JET プログラムが提供するオンラインクラスで日本語を勉強し始めましたが、これは本当に役に立ちました。

Q. 現在の活動について教えてください。

イタリアのスポーツセンターに新しくできた新体操のクラスでコーチをしています。現在は、私がメインで唯一のコーチとして、子どもたちに新体操の美しい世界を紹介しています。

Q. 最後にひとことお願いします。

1993年に新体操の選手として初来日して以来、日本に特別な縁を感じていましたが、SEA として働いた2年間で、この国を深く愛するようになりました。日本は私が最高の自分でいられる場所で、日本にいて、社会に貢献できるインスピレーションやアイデアを得られると感じます。日本で「生きがい」を見つけたと言ってもいいのかもしれませんが。JET プログラムの終了後、残念ながらビザの問題や感染症の流行によって帰国せざるをえませんでした。帰国した時から今に至るまで、再び日本で働く手段をずっと模索しています。

そして、JET プログラムでの私の冒険は、その後も何らかの形で続いていることを付け加えておきたいと思います。日本の教育制度はどうなっているのか、子どもたちはクラスメイトや先生とどのように関わっているのか、人々はどのように外国人を受け入れているのか、食事や習慣はどうなっているのか、その他多くのことを教えてほしいと言われ続けているのです。

私が SEA として経験した素晴らしい体験や感動を共有することで、より多くの海外の人々に、日本とその人々の素晴らしさについて知ってもらうことができれば嬉しく思います。Arigato Japan!



どこでも新体操 — 2021年7月、蔵王山にて